
メ～テレ制作「ヒバクコク」が
第17回 PROGRESS 賞最優秀賞受賞!!

弊社制作の、メ～テレドキュメント「ヒバクコク～切り捨てられた残留放射線～」
(2010年11月29日放送)が、テレビ朝日系列の番組審議会委員の代表者が選ぶ
「第17回 PROGRESS 賞」の最優秀賞に決定し、10月27日、テレビ朝日で
開催された「テレビ朝日系列24社放送番組審議会委員代表者会議」で表彰されまし
た。

＜PROGRESS賞について＞

この賞は、平成7年、テレビ朝日系列24社の番組審議会委員が推奨する最高の賞と位置づけ、審査委員の発意により、放送番組のより一層の質的向上・系列各局の制作力の向上に資するものとして制定されました。

「PROGRESS(プログレス)」とは、進歩・向上・成長を意味し、制作者たちの日頃の努力を応援してゆこうというものです。

この表彰制度は、系列全社が参加し、ジャンルは問わず、自社制作の前年度(毎年4月1日から翌年3月末日まで)に放送された番組の中から、1作品をエントリーし、各社番組審議会委員(選考委員)による選考作業(ブロック別および全国選考の2段階)を経て、各賞を決定します。

【最優秀賞】

メ～テレドキュメント

「ヒバクコク～切り捨てられた残留放射線～」(70分)

制作 名古屋テレビ放送 (P. 伊藤貴宣 D. 安藤則子)

放送日 2010年11月29日

【番組内容】

メ～テレでは、2004年から原子爆弾の残留放射線の問題に取り組んでいる。今回の番組はドキュメンタリーとして6作品目になる。追いつけているのは、愛知県知

多市に住む被爆者の甲斐昭さん（83歳）。甲斐さんは、1945年8月6日、原爆投下直後の広島市に救助活動などのために駆けつけ被爆した。原爆の放射線は、爆発から1分以内の初期放射線とそのあとの残留放射線に分けられている。甲斐さんは残留放射線の被爆者だ。

国は、2008年まで残留放射線による原爆症を認めてこなかった。甲斐さんは集団訴訟の原告第1号として、基準の改正を求めてきた。被爆者側の勝訴が続き、審査方針を改め、国は甲斐さんの原爆症を認定したが、法廷では「甲斐昭はほとんど被曝していない」と放射線の影響を否定し続けた。

訴訟は、60年の時を経て残留放射線の影響にスポットライトを当てた。アメリカの科学者とともに、広島放射線を調査してきた広島大学の名誉教授・葉佐井博巳さんは、放射性降下物による影響、内部被曝の問題が未解決だと証言する。

番組は、日米の科学者の証言や、公文書などから、残留放射線の影響を否定のからくりを追う。

【受賞にあたって—安藤則子ディレクター】

「賞をいただいた責任を感じています。原爆の残留放射線を追いつけてきたのは、被爆者の救済だけでなく、原発事故を含む放射線の安全基準に関わる今日的な問題だったからです。被爆者の方々のご協力に感謝するとともに、この賞を励みに、さらに取材を続けていきたいと思えます。」

<問い合わせ先> メ〜テレ（名古屋テレビ放送）

【番組審議会事務局】 佐藤 052-331-8111